

共通テスト数学 IA 講評

京進 大学受験部 数学科

■ 共通テスト 4 年目 計算量は昨年並

第 1 問と第 2 問が必答、第 3 問～第 5 問のうち 2 問を選択する形式に変化はなかった。

問題量は昨年よりも減っている。難易度は全体的に易化。例年通り「データの分析」は問題文が長い、設問数は少なく、散布図・箱ひげ図・ヒストグラムを正しく読み取り、与えられた計算式にあてはめれば計算も容易である。



■ 出題形式は昨年同様 難易度は易化

数学 IA は「必答問題 2 問 + 選択問題 2 問」と昨年度の形式を踏襲。選択問題の難易度にはあまり差が無いものの、単元の理解度に差が無いのであれば「整数の性質」と「図形の性質」を選択するのが好ましかったと思われる。この 3 問に関しては、誘導に乗って解く力が要求されている。

大問別難易度分析

問題番号	内容	配点	難易度	解答時間 目安	講評
1	〔1〕数と式 〔2〕図形と計量	30	〔1〕やや易 〔2〕やや易	20 分	〔1〕〔2〕どちらも誘導が丁寧に施されているので、それに従って解き進めれば容易に正答を導くことができる。
2	〔1〕2 次関数 〔2〕データの分析	30	〔1〕標準 〔2〕やや易	20 分	〔1〕 高校入試で出題される動点の問題。文章量がやや少なめで、誘導も丁寧である。 〔2〕 箱ひげ図、ヒストグラム、散布図の読み取りが多い。計算問題もあるが、計算式が問題で与えられているため、それにあてはめることで答えに辿りつける。
3	場合の数・確率	20	標準	15 分	誘導に従って解き進めれば、最後まで迷うことなく正答に辿りつける問題である。先の考え方を次に活用できるかどうかが鍵である。
4	整数の性質	20	やや易	15 分	n 進数と一次不定方程式を扱った問題。細かいミスをしなければ「スセソ」まではスムーズに解ける。「夕チツ」は一般的な一次不定方程式だが、互除法の計算などを慎重に行わなければならない。
5	図形の性質	20	やや易	15 分	メネラウスの定理、方べきの定理を利用し、線分の比や長さを求める問題。公式を正確に覚え、使いこなすことができれば容易である。

(大問 1・2 は必答、大問 3・4・5 は 3 問のうち 2 問選択)

■ テスト結果から今後の課題を見つけよう！

得点	現状	今後の課題
75点～100点	共通テストレベルの応用問題に対応できています。高い水準の学力が身についています。	共通テスト形式の演習に積極的に取り組み、現状に満足せず、2次試験レベルの演習を通じて、さらなる学力向上を目指しましょう。
55点～74点	基本問題や標準問題への対応ができています。また応用問題にも対応できつつあります。	今後は応用力の強化を目指しつつ、出題者の意図に沿って解き進める練習をしよう。共通テストや2次試験のような、少しレベルの高い問題にも意欲的に取り組んでいきましょう。
30点～54点	公式の活用や基礎計算ができていますが、理解度にムラがあり、標準的な問題に苦戦しているようです。	まずは基礎力を定着させよう。苦手単元の克服が今後のポイントになります。教科書の中身を理解した上で、続いて傍用問題集の演習に取り組みましょう。
0点～29点	基本レベルの問題を解く力に不安があります。	数学ⅠAの全単元を復習しよう。教科書や傍用問題集を繰り返し使って、基本事項の理解につとめよう。

(参考) 過去5年の共通テスト・センター試験の全国平均点

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
平均点	55.65	37.96	57.68	51.88	59.68

くわしい解答解説はこちら



京進高校部 数学担当からのアドバイス

実際の共通テストの問題を解いてみた手応えはいかがでしたか？

共通テストでは、「長い問題文」や「日常生活に関連した問題」、「会話文」など普段のテストではあまり見慣れない形式で出題されます。そのため、設問を素早く的確に理解する力や論理的に考える力も要求されます。

では何から対策を始めればよいのでしょうか？まずは『教科書レベルの基本的な問題をしっかりと解けるようになる』ことを目指しましょう。初めて見る問題も、この基本的な問題を土台として解いていくからです。特に、「図形と計量(数I)」や「図形の性質(数A)」では図を描くことを意識してくださいね。

共通テストでは、定規を使用できませんから、フリーハンドで図を正確に描く力が求められます。

問題を解くときは、丸暗記ではなく、「なぜそうなるのか」という根本的な理解を心掛けてくださいね。『しっかりと理解した知識』が共通テストにおいて重要となります。

京進で基本事項をしっかりと抑えつつ、この『理解ある知識』を身につけ、私たちと一緒に現役合格を目指しましょう！



屋 和希 先生